令和５年度　厚生労働省科学研究費補助金

治療と仕事を両立する患者に対する継続的な支援の実態と方策の検討
(22JA1002)

分担研究報告書

当事者のフォローアップ調査

研究代表者

永田　昌子
（産業医科大学　医学部　両立支援科学　准教授）

令和５年度　厚生労働省科学研究費補助金

治療と仕事を両立する患者に対する継続的な支援の実態と方策の検討

当事者のフォローアップ調査

研究代表者　永田　昌子　（産業医科大学　医学部　両立支援科学　准教授）

研究分担者　立石　清一郎（産業医科大学産業生態科学研究所災害産業保健センター教授）

原田　有理沙（産業医科大学　医学部　両立支援科学　助教）

研究要旨:

【目的】医療機関での治療と仕事の両立支援（以下、両立支援）の重要性が示されてきた。しかし、その支援効果や継続支援の必要性については、未だエビデンスが不足している。産業医科大学病院では、2018 年に就学・就労支援センターと両立支援科を同時開設し、いち早く両立支援活動に取り組んできており、その支援数及び診療報酬算定数は日本有数である。今回我々は、両立支援において、継続的な支援が必要となる患者が置かれた状態を類型化し、継続的な支援の促進及び阻害要因を明らかにすべく、産業医科大学病院の両立支援データベースを用いて患者横断調査を実施した。

【方法】産業医科大学病院において、治療時に両立支援に関する面談を実施した症例に対し、退院後約 3 か月後、約 6 カ月後、約 12 カ月後に当院を受診した症例に対して追跡調査を行った。収集した情報は、属性、職場や作業に関する情報、治療と仕事の就労両立に関する困りごとや精神症状ならびに労働機能障害などについてである。記述統計並びに職種（ブルーカラーとホワイトカラー）と疾病（がんとそれ以外）で分けて集計を行った。ブルーカラーは、次の作業を選択した症例とした。身体への負荷が大きい作業、大きく体を使う作業、暑熱または寒冷な場所での作業、高所作業や重機・車の運転など本人および公衆に危険が及ぶ作業、粉じんや有害物質を取り扱う作業。さらに、精神症状と労働機能障害は継続的に回答が得られている症例を用いて検定を行った。

【結果・考察】

治療と仕事の両立に関する困りごとについて、初回相談時は困りごとを有している割合が高かった。初回相談時と比較し、退院後 3 か月後、6 カ月後、12 カ月後と困りごとは減る傾向を認めた。退院後と 3 か月後を比較すると、「社会・家族背景」以外の残りの困りごとについて有意に困りごとは減っていた。困りごとを 1 つ以上有している割合は、初回で 91.2％であったが、退院 3 か月後も 73.5％、6 カ月後 67.1％、12 か月後でも 68.1％が困りごとを有していた。

また、精神症状を評価したＫ６は、初回相談時が最も高く、経過とともに減少する傾向を認め、初回から 3 か月後の比較において有意な差を認めた。一方、WFun は 3 カ月と 6 カ月後、6 カ月後と 12 カ月後に有意な減少は認めなかった。

【考察】困りごとや精神症状は初回相談時から有意に減少していたが、退院後 12 か月後も多くの患者が困りごとを抱えており、退院 6 カ月後と 12 カ月後には約 67%以上が引き続き困りごとを有していた。また、退院後 3 か月で労働機能障害を有する割合は

低下しておらず、継続的な支援が必要とされる。療養・就労両立支援指導料の継続支援制度により、初回支援から 3 か月間は支援者によるインセンティブがあり、その後は患者本人からの相談が必要となる。今後は、初回支援後 3 か月での困りごとの再評価と積極的な支援の必要性のスクリーニングが適切と考えられる。

研究協力者

渡邉 萌美　（産業医科大学病院 両立支援科 修練医）

古江 晃子　（産業医科大学病院 両立支援科 修練医）

石上 紋　（産業医科大学病院 両立支援科 保健師）

細田 悦子　（産業医科大学病院 両立支援科 看護師）

A．目的

2016 年「事業場における治療と仕事の両立支援のためのガイドライン」の発出に続き、2018 年には「医療職と事業者の連携マニュアル」で医療機関の医師が病状・治療計画・就労上の必要な配慮等について事業者に意見書を提供する枠組みが示され、外来診療における診療報酬として、がん患者を対象に「療養・就労両立支援指導料」が新設された。これによって、医療機関での治療と仕事の両立支援（以下、両立支援）の重要性が示された。これまでの医療現場は患者の仕事について本人・家族と会社の問題であり介入すべきでないと捉えがちで、就労支援にも消極的であったが、現在は、多くの医療機関が積極的な両立支援を検討している。しかし、その支援効果や継続支援の必要性については、未だエビデンスが不足している。

産業医科大学病院は、北九州市唯一の大学病院および特定機能病院であり、標榜科目 22 科・病床数 678 床の病院である。2018 年当院では、日本初の医療機関の両立支援部門として、多職種からなる就学・就労支援センターと日本初の両立支援専門の医学的な診断・治療を行う両立支援科を開設し[1)]、いち早く両立支援活動に取り組んできた。当院両立支援部門は主たる診療科と連携し、医療機関の立場で就業上の問題点を整理し解決策を提案し、必要に応じて事業者に主治医の意見書を発行する役割を担っており、その支援数及び診療報酬算定数は日本有数である[2)]。

今回我々は、両立支援において、継続的な支援が必要となる患者が置かれた状態を類型化し、継続的な支援の促進及び阻害要因を明らかにすべく、産業医科大学病院の両立支援データベースを用いて患者のフォローアップ調査を実施した。「両立支援 10 の質問（森晃爾ら，2016）」

B．方法

【縦断研究】

産業医科大学病院において、2022 年 10 月-2023 年 12 月の期間に、治療時に両立支援を希望し、両立支援に関する初回面談を実施した事例に対し、退院後約 3 か月後、約 6 カ月後、約 12 カ月後に当院に外来受診した際に両立支援コーディネーターが就労の状況等について問診票を用いて尋ねた。

収集した情報は、属性、職場や作業に関する情報、精神症状ならびに労働機能障害などである。また、困りごとは「両立支援 10 の質問（森晃爾ら, 2016）」を用いて尋ねた。

記述統計として、継続的な変化と職種（ブルーカラーとホワイトカラー）と疾病（がんとそれ以外）で分けて集計を行った。ブルカラーは、次の作業を選択した症例とした。①身体への負荷が大きい作業、②大きく体を使う作業、③暑熱または寒冷な場所での作業、④高所作業や重機・車の運転など本人および公衆に危険が及ぶ作業、⑤粉じんや有害物質を取り扱う作業である。さらに、「両立支援 10 の質問（森晃爾ら, 2016）」と精神症状と労働機能障害は継続的に回答が得られている症例を用いて、マクネマー検定ならびに対応のある t 検定を行った。

C. 結果

初回の回答が得られたのは 274 例（男性 118 例、女性 156 例）、退院後 3 か月後 105 例（男性 46 例、女性 59 例）、6 カ月後 39 例（男性 17 例、女性 22 例）、12 カ月後 19 例（男性 9 例、女性 12 例）であった。疾病の内訳は ICD10 分類で、C 新生物 101 例、D 血液および造血器の疾患ならびに免疫機構の障害 28 例、E 内分泌、栄養および代謝疾患 10 例、F 精神及び行動の障害 3 例、G 神経系の疾患 9 例、H 眼及び付属器 13 例、I 循環器の疾患 40 例、J 呼吸器系の疾患 3 例、K 消化器系の疾患 10 例、L 皮膚および皮下組織 1 例、M 筋骨格系及び結合組織の疾患 31 例、N 腎尿路生殖器 15 例 Q 先天奇形、変形、染色体異常 1 例、R 症状、徴候および異常臨床所見・異常 2 例、ST 損傷、中毒及びその他の外傷 3 例であった

休業前の仕事（複数選択可）は、対人サービスや顧客とのコミュニケーションを伴う作業 58.8%、注意力の必要な作業 56.9%、PC 作業 49.3%、事務作業 38.7%、複数のことを同時に行う作業 38.0%、身体への負荷が大きい作業 37.6%、大きく体を使う作業 35.8%、暑熱または寒冷な場所での作業 24.8%、指先を細かく使う作業 22.3%、高所作業や重機・車の運転など本人および公衆に危険が及ぶ作業 20.1%、粉じんや有害物質を取り扱う作業 13.5%であった。所属している事業場の規模は、1000 人以上 23.0%、300ー999 人 11.7%、50ー299 人 25.2%、50 人未満 27.4%、わからない 12.8%であった。雇用形態は、正社員 59.9%、アルバイト・パート 16.8%、契約職員/嘱託社員 13.9%、自営業 3.6%、派遣社員 2.6%、役員 1.1%、その他 0.7%、わからない 1.5%であった。

解析１）困りごとの変化

①　業務遂行能力の低下:

初回では「あり」が 202 件（74.3%）で、「なし」が 70 件（25.7%）でした。3 か月後には「あり」が 52.8%に減少し、6 か月後には 50.7%、12 か月後には「あり」が 33 件（51.6%）に減少し、「なし」が 31 件（48.4%）に増加していた。

②　心理的影響:

初回では「あり」が 181 件（66.5%）、「なし」が 91 件（33.5%）でした。3 か月後には「あり」が 43.8%に減少し、6 か月後には 47.9%、12 か月後には「あり」が 21 件（33.3%）、「なし」が 42 件（66.7%）であった。

③　本人要因:

初回には「あり」が 131 件（47.8%）、「なし」が 143 件（52.2%）でした。3 か月後には「あり」が 33.1%に減少し、6 か月後には「あり」が 15 件（30.1%）に減少し、12 か月後には「あり」が 23.8%）に減少していた。

④　自助努力:

初回には「あり」が 108 件（39.4%）、「なし」が 166 件（60.6%）でした。3 か月後には「あり」が 18.5%に減少し、6 か月後には 19.2%、12 か月後 14.3%に減少し、ていた。

⑤　職場背景:

初回には「あり」が 111 件（40.5%）、「なし」が 163 件（59.5%）でした。3 か月後には「あり」が 28.5%に減少し、6 か月後には 12 件（31.1%）に 12 か月後 19.4%に減少していた。

⑥　職場の受け入れ:

初回には「あり」が 91 件（33.1%）、「なし」が 184 件（66.9%）でした。3 か月後には「あり」が 20.0%に減少し、6 か月後、「あり」は 10 件（13.7%）に減少し、12 か月後 16.1%と微増していた。

⑦　職場の適正配置:

初回には「あり」が 102 件（37.4%）、「なし」が 171 件（62.6%）でした。3 か月後には「あり」が 22.8%に減少し、6 か月後、「あり」は 10 件（13.7%）に減少し、12 か月後 16.1%と微増していた。

⑧　社会・家族背景:

初回には「あり」が 33 件（12.0%）、「なし」が 242 件（88.0%）でした。3 か月後には「あり」が 9.3%に減少し、12 か月後、「あり」は 5 件（8.2%）に減少していた。

⑨　職場と医療機関との連携:

初回には「あり」が 71 件（26.3%）、「なし」が 199 件（73.7%）でした。3 か月後には「あり」が 9.4%に減少し、6か月後、「あり」は 6 件（9.6%）に減少していた。

⑩　情報獲得:

初回には「あり」が 124 件（45.6%）、「なし」が 148 件（54.4%）でした。3 か月後には「あり」が 17.7%に減少し、6か月後、「あり」は 9 件（11.0%）に減少し、12 か月後 15.3%と微増していた。

⑧以外の項目は初回と退院 3 か月後の比較で困りごとを有している割合は有意に減っていた。3 か月後から 6 か月後、12 か月後の減少は差を認めなかった。

これらの 10 の困りごとのうち 1 つ以上有している割合は、初回では 91.2%、退院 3 か月後も 73.5%、6 カ月後 67.1%、12 か月後 68.1%が困りごとを有していた。

解析２）精神症状（K6）の変化

K6 の合計点の平均値は初回 6.3 点であったが、3 か月後 3.8 点、6 か月後 3 点、と減少傾向を認めたが、12 か月後 4.33 点とやや増加した。

同一患者の時期の比較において、初回と 3 か月後の減少は、有意な差を認めた。

解析３）労働機能障害（WFun）の変化

WFun の平均は 3 カ月と 6 カ月後、6 カ月後と 12 カ月後に有意な減少は認めなかった。また、労働機能障害のカットオフ値を 21 点以上とした場合、労働機能障害があった人の割合は、3 か月後 7.59%、6 カ月後 11.11%、12 カ月後 8.7%と減少を認めなかった。

解析４）職種の比較

困りごとの有無の割合をブルーカラーとホワイトカラーで差を比較したとこと、初回相談時は、⑤職場背景、⑦職場の適正配置、⑨職場と医療機関との連携、⑩情報獲得であった。

解析５）疾病の比較

疾病の比較をがんとそれ以外の比較を行ったが、有意差を認める差はなかった。

Ｄ．考察

困りごとや精神症状は、初回相談時から有意に減少していた。産業医科大学病院では、初回相談の開始の契機は、入院支援時である。そのため、入院中および入院前後に、困りごとが存在するものの、適切に相談対応したことにより、困りごとは解決しているとも考えられる。しかし困りごとを有している患者は減ってはいるものの、変わらず困りごとを有している人は、退院 6 カ月後 67.1%、12 か月後 68.1%が困りごとを有しており、患者の相談に応じ、困りごとを解決する方策を検討し、必要に応じて具体的な支援を行うことが必要といえる。

また、退院後 3 か月後に退院後 3 か月後に労働機能障害を有していた割合は低下していなかった。

一方、療養・就労両立支援指導料の継続支援は、初回支援をした月から数えて 3 か月で継続支援の点数を請求できる仕組みである。この仕組みにより、初回支援をした月から 3 か月内は支援者が起点となる支援を行うインセンティブが存在する。一方、初回支援 4 か月以降は支援者が起点となる支援のインセンティブがないた

め、患者本人からの相談が必要となる。今後、初回支援から 3 か月（継続支援の保険請求が終了するタイミング）で必要に応じて、その時点での困りごとや労働機能障害を有しているかを評価し、支援者が起点となる支援の必要性を評価し、積極的な支援が必要な患者をスクリーニングすることが適切かもしれない。

E．結論

産業医科大学病院における患者フォローアップ調査によって、相談支援開始時からの患者の困りごとや状態の変化が明らかとなった。

継続支援の必要性が高くなることが予想される状態として、退院 3 か月後でも労働機能障害を有している事例などが考えられた。

F．引用・参考文献

1. 尾辻豊，立石清一郎，田中文啓，他（2019）：産業医科大学病院における両立支援科・就学就労支援センター．日職災医会誌 67（5）：369-374
2. 原田有理沙,立石清一郎，橋本博興，他．2018-2020年度産業医科大学病院における両立支援の診療実績と今後の課題．J UOEH. 2021;43(4):445-453. doi: 10.7888/juoeh.43.445. PMID: 34897174.

G. 学会発表

1. 永田昌子、原田有理沙、石上紋、古江晃子、渡邉萌美、細田悦子.第９回　日本がんサポーティブケア学会学術集会　2024 年 5 月（予定）

H．論文業績

なし

I. 知的財産権の出願・登録状況:（予定を含む。）

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3.その他
なし

添付資料　　（初回）

年代	数	割合
20代	10	3.6
30代	38	13.9
40代	66	24.1
50代	85	31.0
60代	58	21.2
70代	15	5.5
80代	2	0.7
総計	274	100.0

性別	数	割合
男性	156	56.9
女性	118	43.1
総計	274	100

ICD10	
C 新生物	101
D 血液および造血器の疾患ならびに	28
E 内分泌、栄養および代謝疾患	10
F 精神及び行動の障害	3
G 神経系の疾患	9
H 眼及び付属器	13
I 循環器の疾患	40
J 呼吸器系の疾患	3
K 消化器系の疾患	10
L 皮膚および皮下組織	1
M 筋骨格系及び結合組織の疾患	31
N 腎尿路生殖器	15
Q 先天奇形、変形、染色体異常	1
R 症状、徴候および異常臨床所見・異常	2
ST 損傷、中毒及びその他の外傷	3
わからない	4
	274

事業場の規模	数	割合
1000人以上	63	23.0
300－999人	32	11.7
50－299人	69	25.2
50人未満	75	27.4
わからない	35	12.8
総計	274	100.0

雇用形態	数	割合
正社員	164	59.9
アルバイト・パート	46	16.8
契約職員/嘱託社員	38	13.9
自営業	10	3.6
派遣社員	7	2.6
役員	3	1.1
その他	2	0.7
わからない	4	1.5
総計	274	100.0

作業（複数選択可能）	数	割合
対人サービスや顧客とのコミュニケーションを伴う作業	161	58.8
注意力の必要な作業	156	56.9
PC作業	135	49.3
事務作業	106	38.7
複数のことを同時に行う作業	104	38.0
身体への負荷が大きい作業	103	37.6
大きく体を使う作業	98	35.8
暑熱または寒冷な場所での作業	68	24.8
指先を細かく使う作業	61	22.3
高所作業や重機・車の運転など本人および公衆に危険が及ぶ作業	55	20.1
粉じんや有害物質を取り扱う作業	37	13.5

事業所内産業保健スタッフ		
産業医		
いる	105	38.3
いない	105	38.3
わからない	64	23.4
産業看護職		
いる	43	15.7
いない	119	43.4
わからない	112	40.9

添付資料　（退院後３ヶ月）

年代	数	割合
20代	3	2.9
30代	13	12.4
40代	21	20.0
50代	41	39.0
60代	20	19.0
70代	7	6.7
総計	105	100.0

性別	数	割合
男性	59	56.2
女性	46	43.8
総計	105	100

ICD10	
C 新生物	47
D 血液および造血器の疾患ならびに	7
E 内分泌、栄養および代謝疾患	4
G 神経系の疾患	4
H 眼及び付属器	3
I 循環器の疾患	16
J 呼吸器系の疾患	1
K 消化器系の疾患	3
L 皮膚および皮下組織	1
M 筋骨格系及び結合組織の疾患	9
N 腎尿路生殖器	6
R 症状、徴候および異常臨床所見・異常	2
わからない	2
	105

添付資料　（退院後６ヶ月）

年代	数	割合
20代	1	2.6
30代	5	12.8
40代	11	28.2
50代	11	28.2
60代	9	23.1
70代	2	5.1
総計	39	100.0

性別	数	割合
男性	22	56.4
女性	17	43.6
総計	39	100

ICD10	
C 新生物	22
D 血液および造血器の疾患ならびに	5
E 内分泌、栄養および代謝疾患	1
I 循環器の疾患	6
K 消化器系の疾患	1
M 筋骨格系及び結合組織の疾患	2
N 腎尿路生殖器	1
わからない	1
	39

添付資料　（退院後12ヶ月）

年代	数	割合
30代	5	26.3
40代	3	15.8
50代	6	31.6
60代	5	26.3
総計	19	100.0

性別	数	割合
男性	10	52.6
女性	9	47.4
総計	19	100

ICD10	
C 新生物	11
D 血液および造血器の疾患ならびに	1
G 神経系の疾患	1
K 消化器系の疾患	1
M 筋骨格系及び結合組織の疾患	4
N 腎尿路生殖器	1
	19

表　困りごとの変化

①業務遂行能力の低下

	初回		3か月後		6カ月後		12カ月後	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
あり	202	74.3	67	52.8	37	50.7	33	51.6
なし	70	25.7	60	47.2	36	49.3	31	48.4
	272		127		73		64	

McNemar's	初回と3か月後の差	3，6カ月後の差	6，12カ月後の差
	<0.001	0.507	1.000

②心理的影響

	初回		3か月後		6カ月後		12カ月後	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
あり	181	66.5	57	43.8	35	47.9	21	33.3
なし	91	33.5	73	56.2	38	52.1	42	66.7
	272		130		73		63	

McNemar's	初回と3か月後の差	3，6カ月後の差	6，12カ月後の差
	<0.001	0.2891	0.226

③本人要因

	初回		3か月後		6カ月後		12カ月後	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
あり	131	47.8	43	33.1	22	30.1	15	23.8
なし	143	52.2	87	66.9	51	69.9	48	76.2
	274		130		73		63	

McNemar's	初回と3か月後の差	3，6カ月後の差	6，12カ月後の差
	<0.05	1.000	0.687

④自助努力

	初回		3か月後		6カ月後		12カ月後	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
あり	108	39.4	24	18.5	14	19.2	9	14.3
なし	166	60.6	106	81.5	59	80.8	54	85.7
	274		130		73		63	

McNemar's	初回と3か月後の差	3，6カ月後の差	6，12カ月後の差
	<0.001	1.000	0.25

⑤職場背景

	初回	3か月後	6カ月後	12カ月後

	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
あり	111	40.5	37	28.5	23	31.1	12	19.4
なし	163	59.5	93	71.5	51	68.9	50	80.6
	274		130		74		62	

McNemar's	初回と3か月後の差	3，6カ月後の差	6，12カ月後の差
	<0.05	1.000	0.375

⑥職場の受け入れ

	初回		3か月後		6カ月後		12カ月後	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
あり	91	33.1	26	20.0	10	13.7	10	16.1
なし	184	66.9	104	80.0	63	86.3	52	83.9
	275		130		73		62	

McNemar's	初回と3か月後の差	3，6カ月後の差	6，12カ月後の差
	0.0784	0.25	1.000

⑦職場の適正配置

	初回		3か月後		6カ月後		12カ月後	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
あり	102	37.4	29	22.8	10	13.7	10	16.1
なし	171	62.6	98	77.2	63	86.3	52	83.9
	273		127		73		62	

McNemar's	初回と3か月後の差	3，6カ月後の差	6，12カ月後の差
	<0.01	0.45	0.625

⑧社会・家族背景

	初回		3か月後		6カ月後		12カ月後	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
あり	33	12.0	12	9.3	6	8.2	5	8.1
なし	242	88.0	117	90.7	67	91.8	57	91.9
	275		129		73		62	

McNemar's	初回と3か月後の差	3，6カ月後の差	6，12カ月後の差
	1.000	1.000	1.000

⑨職場と医療機関との連携

	初回		3か月後		6カ月後		12カ月後	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
あり	71	26.3	12	9.4	7	9.6	6	9.8
なし	199	73.7	116	90.6	66	90.4	55	90.2

270	128	73	61

McNemar's	初回と3か月後の差	3，6カ月後の差	6，12カ月後の差
	<0.005	1.000	1.000

⑩情報獲得

	初回		3か月後		6カ月後		12カ月後	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
あり	124	45.6	23	17.7	8	11.0	9	15.3
なし	148	54.4	107	82.3	65	89.0	50	84.7
	272		130		73		59	

McNemar's	初回と3か月後の差	3，6カ月後の差	6，12カ月後の差
	<0.001	1.000	1.000

10の困りごとのうち、1つ以上の困りごとの有無

	初回		3か月後		6カ月後		12カ月後	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
あり	371	91.2	100	73.5	51	67.1	47	68.1
なし	36	8.8	36	26.5	25	32.9	22	31.9
	407		136		76		69	

困りごとの疾病の比較

①業務遂行能力の低下

	がん		がん以外	
	件数	%	件数	%
あり	76	72.4	126	75.4
なし	29	27.6	41	24.6
	105		167	

P=0.573

②心理的影響

	がん		がん以外	
	件数	%	件数	%
あり	74	71.8	107	63.3
なし	29	28.2	62	36.7
	103		169	

P=0.148

③本人要因

がん	がん以外

P=0.151

	件数	%	件数	%
あり	55	53.4	76	44.4
なし	48	46.6	95	55.6
	103		171	

④自助努力

	がん		がん以外		P=0.683
	件数	%	件数	%	
あり	39	37.9	69	40.4	
なし	64	62.1	102	59.6	
	103		171		

⑤職場背景

	がん		がん以外		P=0.295
	件数	%	件数	%	
あり	38	36.5	73	42.9	
なし	66	63.5	97	57.1	
	104		170		

⑥職場の受け入れ

	がん		がん以外		P=0.09
	件数	%	件数	%	
あり	28	26.9	63	36.8	
なし	76	73.1	108	63.2	
	104		171		

⑦職場の適正配置

	がん		がん以外		P=0.421
	件数	%	件数	%	
あり	35	34.3	67	39.2	
なし	67	65.7	104	60.8	
	102		171		

⑧社会・家族背景

	がん		がん以外		P=0.854
	件数	%	件数	%	
あり	12	11.5	21	12.3	
なし	92	88.5	150	87.7	
	104		171		

⑨職場と医療機関との連携

	がん		がん以外		P=0.148
	件数	%	件数	%	
あり	22	21.4	49	29.3	
なし	81	78.6	118	70.7	
	103		167		

⑩情報獲得

	がん		がん以外		P=0.517
	件数	%	件数	%	
あり	50	48.1	74	44.0	
なし	54	51.9	94	56.0	
	104		168		

表　WFun（労働機能障害）

職種（ブルーカラーとホワイトカラー）の比較

		例数	平均値	Std.err	*p*-value
3か月後	全体	61	11.90	0.6639	0.9303
	ブルーカラー	38	11.95	1.0208	
	ホワイトカラー	23	11.83	0.8788	
6カ月後	全体	28	11.50	1.2583	0.1552
	ブルーカラー	16	13.06	2.0196	
	ホワイトカラー	12	9.42	0.9805	
12カ月後	全体	12	10.67	1.3999	0.8514
	ブルーカラー	7	10.43	2.2238	
	ホワイトカラー	5	11.00	1.5811	

疾病（がんとそれ以外）の比較

		例数	平均値	Std.err	*p*-value
3か月後	全体	79	11.82	0.6	0.493
	がん	33	11.33	0.854	
	その他	46	12.17	0.833	
6カ月後	全体	54	11.79	0.92	0.067
	がん	30	13.30	1.285	
	その他	24	9.91	1.229	
12カ月後	全体	46	11.41	0.889	0.935
	がん	21	11.33	1.404	
	その他	25	11.48	1.16	

同一患者の時期の比較

		例数	平均値	Std.err	*p*-value
3か月後と6カ月後の比較					
	3ヶ月後	22	10.00	0.7055	0.6446
	6ヶ月後	22	10.62	1.2832	
6カ月後と12カ月後の比較					
	6ヶ月後	15	11.00	1.8822	0.3944
	12ヶ月後	15	9.13	0.6751	

K6

職種（ブルーカラーとホワイトカラー）の比較

		例数	平均値	Std.err	*p*-value
3か月後	全体	61	11.901	0.6639	0.9303

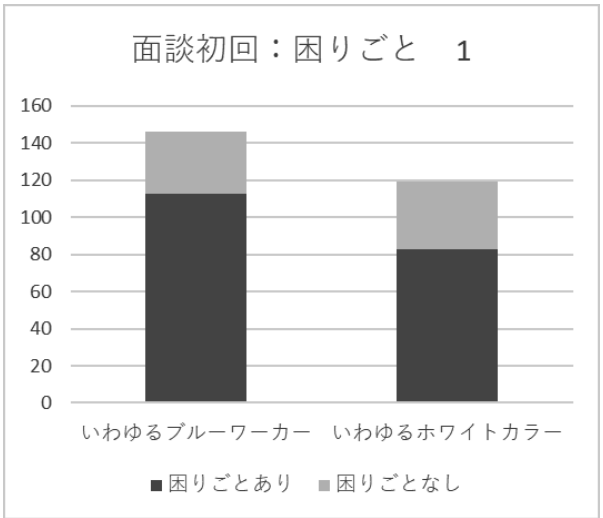
	ブルーカラー	38	11.947	1.0208	
	ホワイトカラー	23	11.826	0.8788	
6カ月後	全体	28	11.5	1.2583	0.1552
	ブルーカラー	16	13.062	2.0196	
	ホワイトカラー	12	9.4166	0.9805	
12カ月後	全体	12	10.666	1.3999	0.8514
	ブルーカラー	7	10.428	2.2238	
	ホワイトカラー	5	11	1.5811	

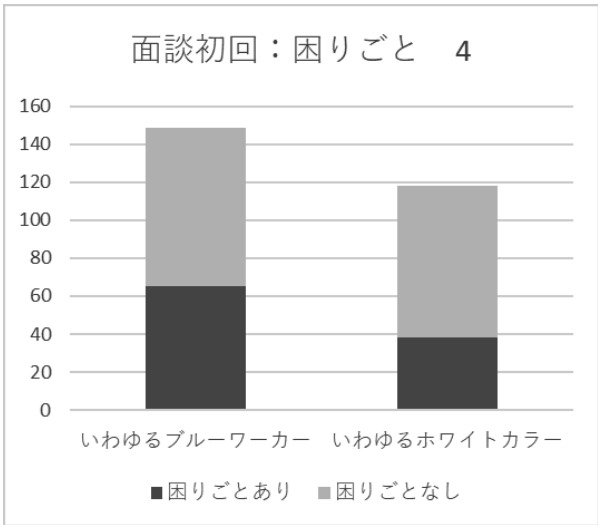
疾病（がんとそれ以外）の比較

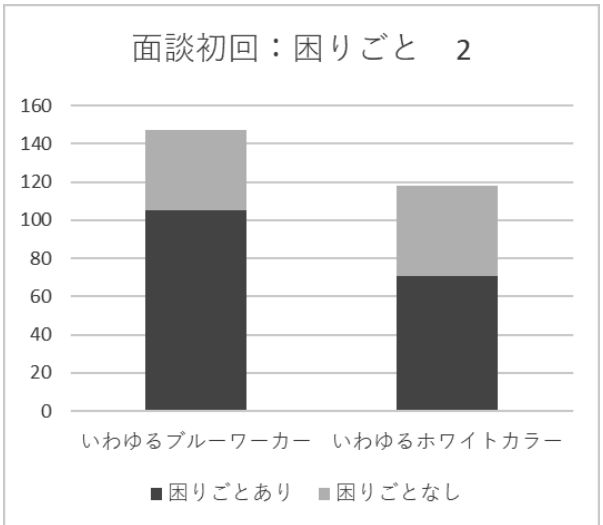
		例数	平均値	Std.err	*p*-value
初回	全体	269	5.992	0.3261	0.231
	がん	104	5.5	0.5077	
	その他	165	6.303	0.424	
3か月後	全体	134	3.768	0.353	0.875
	がん	66	3.712	0.498	
	その他	68	3.823	0.503	
6カ月後	全体	73	3.1	0.417	0.823
	がん	42	3.19	0.568	
	その他	31	3	0.62	
12カ月後	全体	66	4.06	0.529	0.642
	がん	36	3.83	0.62	
	その他	30	4.33	0.906	

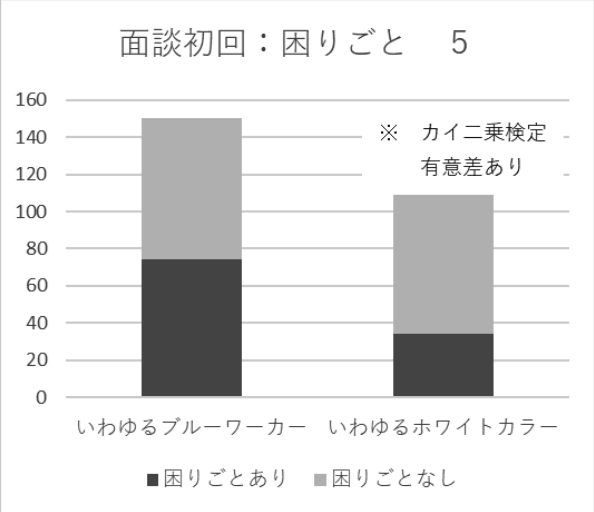
同一患者の時期の比較

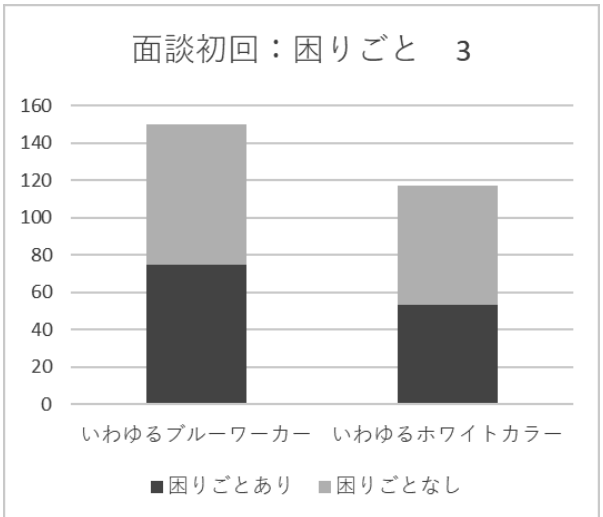
		例数	平均値	Std.err	*p*-value
初回と３か月後の比較					
	初回	100	5.55	0.489	**0.0008**
	3ヶ月後	100	4.08	0.423	
3か月後と6カ月後の比較					
	3ヶ月後	35	2.77	0.526	0.69
	6ヶ月後	35	2.62	0.595	
6カ月後と12カ月後の比較					
	6ヶ月後	28	2.5	0.667	0.079
	12ヶ月後	28	3.464	0.583	

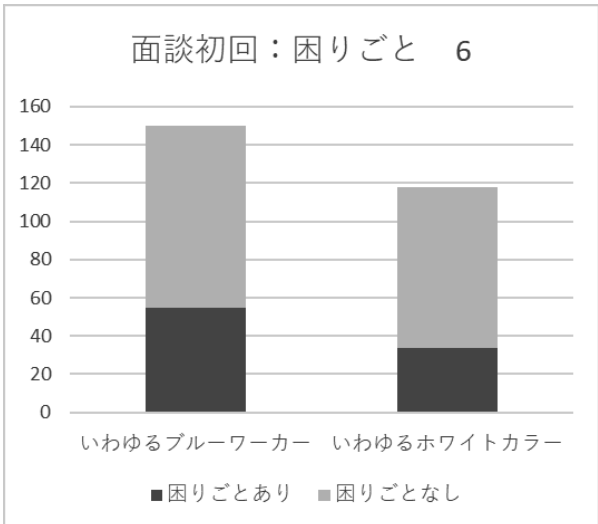

面談初回：困りごと　1
160
140
120
100
80
60
40
20
0
いわゆるブルーワーカー
いわゆるホワイトカラー
■困りごとあり
■困りごとなし

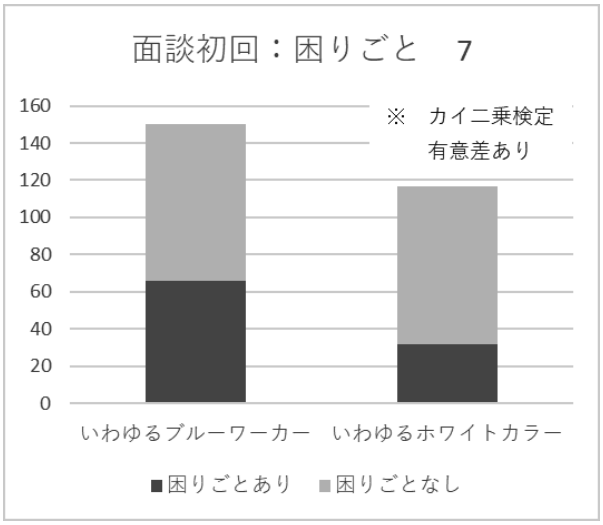

面談初回：困りごと　4
160
140
120
100
80
60
40
20
0
いわゆるブルーワーカー
いわゆるホワイトカラー
■困りごとあり
■困りごとなし

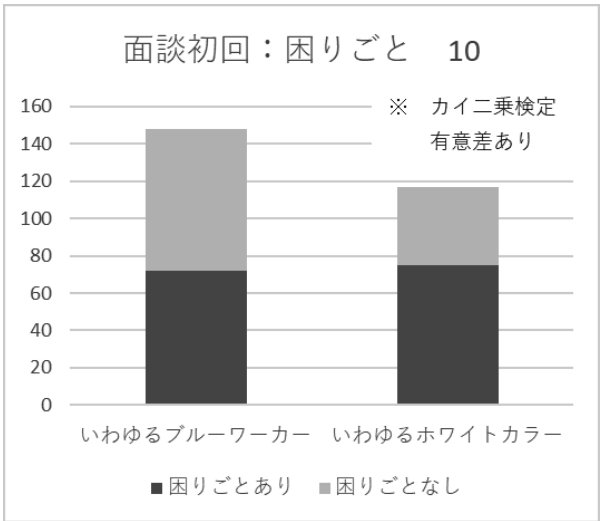

面談初回：困りごと　2
160
140
120
100
80
60
40
20
0
いわゆるブルーワーカー
いわゆるホワイトカラー
■困りごとあり
■困りごとなし

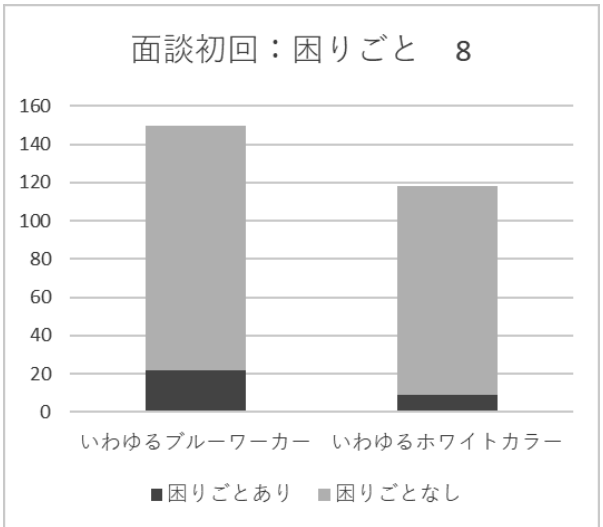

面談初回：困りごと　5
※　カイ二乗検定
有意差あり
160
140
120
100
80
60
40
20
0
いわゆるブルーワーカー
いわゆるホワイトカラー
■困りごとあり
■困りごとなし

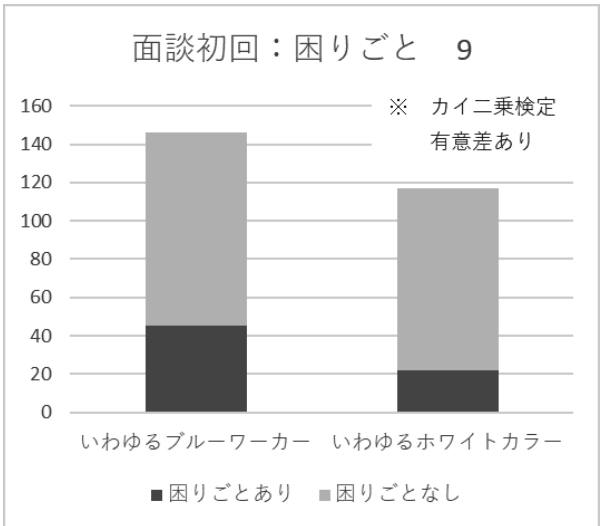

面談初回：困りごと　3
160
140
120
100
80
60
40
20
0
いわゆるブルーワーカー
いわゆるホワイトカラー
■困りごとあり
■困りごとなし

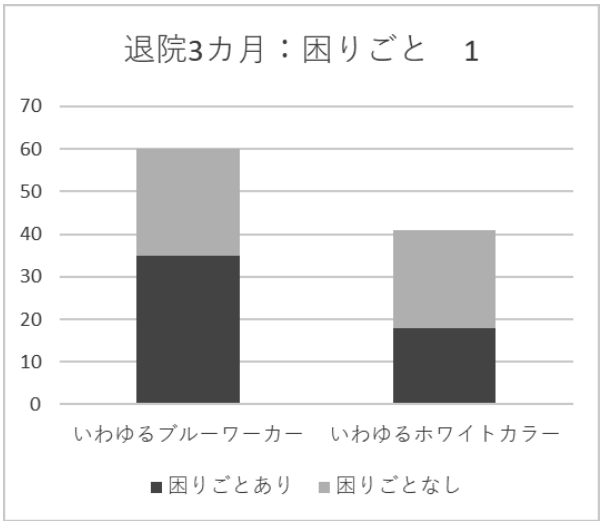

面談初回：困りごと　6
160
140
120
100
80
60
40
20
0
いわゆるブルーワーカー
いわゆるホワイトカラー
■困りごとあり
■困りごとなし

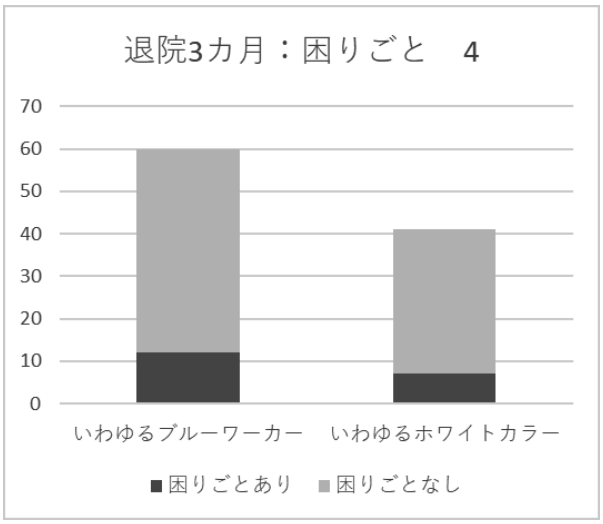

面談初回：困りごと　7
※　カイ二乗検定
有意差あり
160
140
120
100
80
60
40
20
0
いわゆるブルーワーカー
いわゆるホワイトカラー
■困りごとあり　■困りごとなし

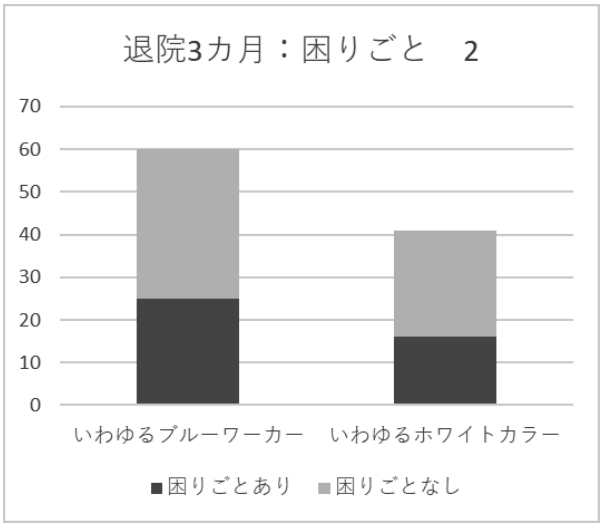

面談初回：困りごと　10
※　カイ二乗検定
有意差あり
160
140
120
100
80
60
40
20
0
いわゆるブルーワーカー
いわゆるホワイトカラー
■困りごとあり　■困りごとなし

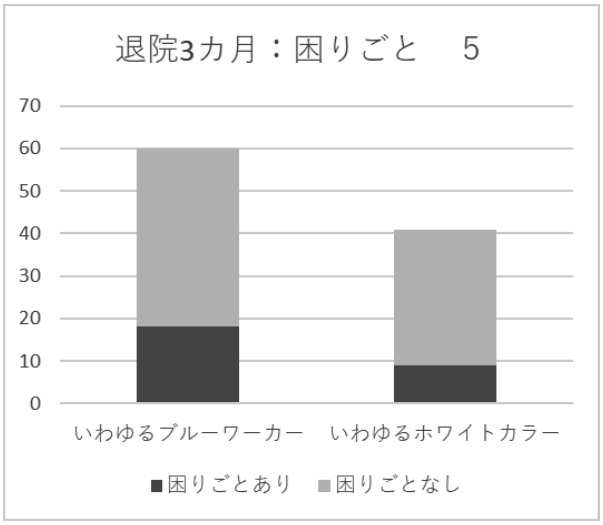

面談初回：困りごと　8
160
140
120
100
80
60
40
20
0
いわゆるブルーワーカー
いわゆるホワイトカラー
■困りごとあり　■困りごとなし

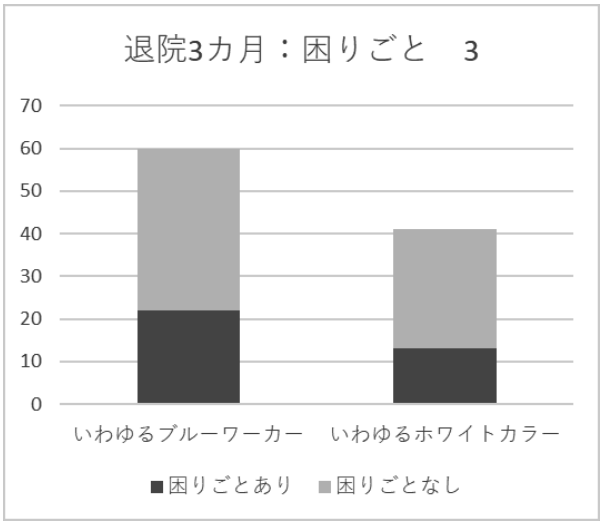

面談初回：困りごと　9
※　カイ二乗検定
有意差あり
160
140
120
100
80
60
40
20
0
いわゆるブルーワーカー
いわゆるホワイトカラー
■困りごとあり　■困りごとなし

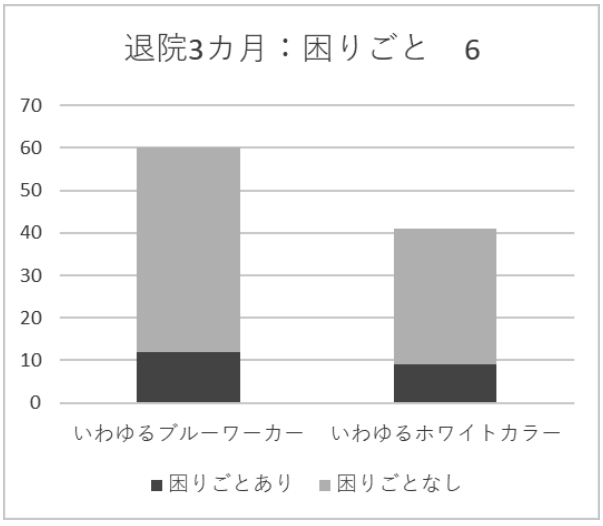

退院3カ月：困りごと　1
70
60
50
40
30
20
10
0
いわゆるブルーワーカー
いわゆるホワイトカラー
困りごとあり
困りごとなし

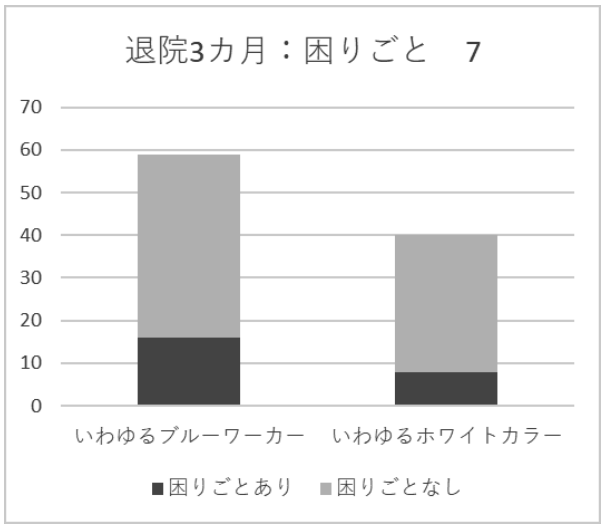

退院3カ月：困りごと　4
70
60
50
40
30
20
10
0
いわゆるブルーワーカー
いわゆるホワイトカラー
困りごとあり
困りごとなし

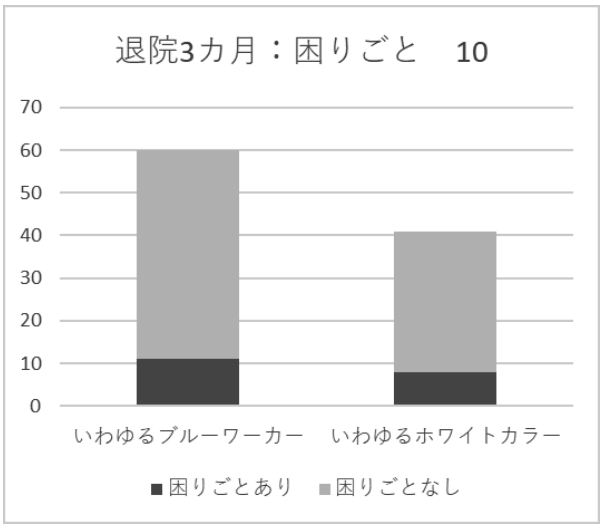

退院3カ月：困りごと　2
70
60
50
40
30
20
10
0
いわゆるブルーワーカー
いわゆるホワイトカラー
困りごとあり
困りごとなし

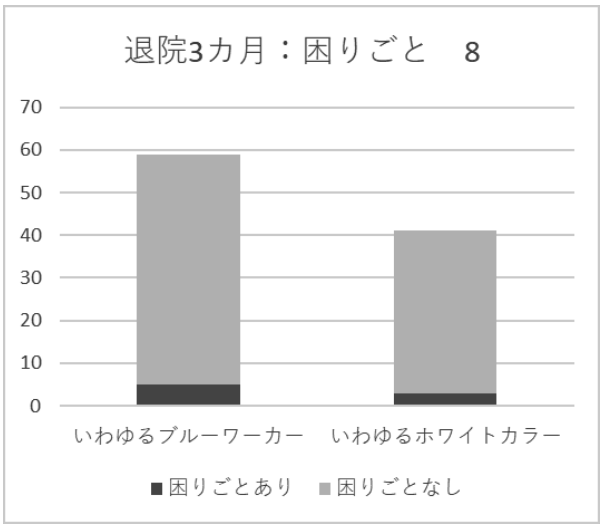

退院3カ月：困りごと　5
70
60
50
40
30
20
10
0
いわゆるブルーワーカー
いわゆるホワイトカラー
困りごとあり
困りごとなし

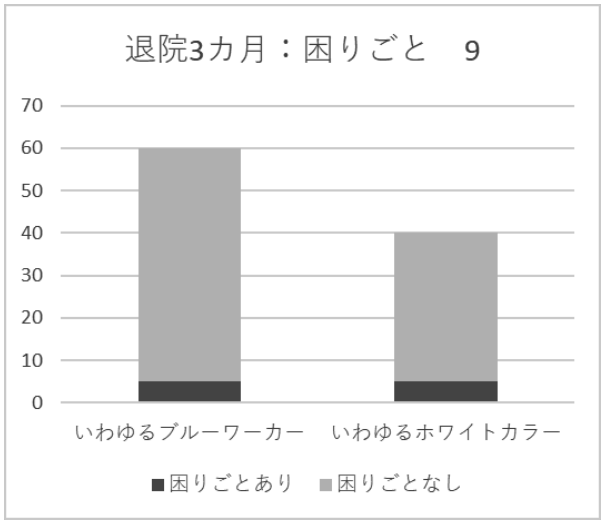

退院3カ月：困りごと　3
70
60
50
40
30
20
10
0
いわゆるブルーワーカー
いわゆるホワイトカラー
困りごとあり
困りごとなし

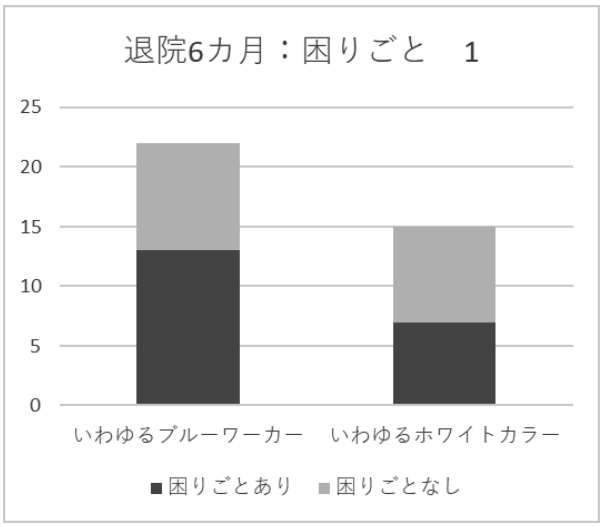

退院3カ月：困りごと　6
70
60
50
40
30
20
10
0
いわゆるブルーワーカー
いわゆるホワイトカラー
困りごとあり
困りごとなし

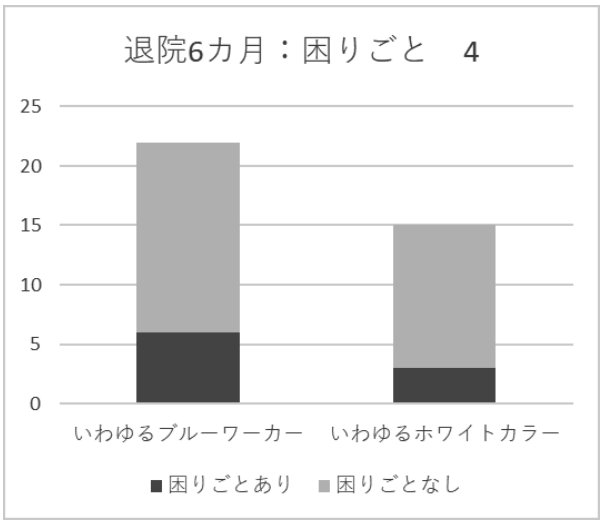

退院3カ月：困りごと　7
70
60
50
40
30
20
10
0
いわゆるブルーワーカー
いわゆるホワイトカラー
■困りごとあり
■困りごとなし

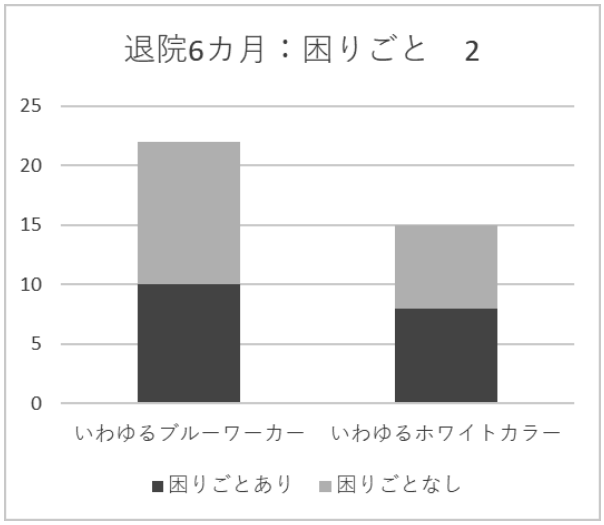

退院3カ月：困りごと　10
70
60
50
40
30
20
10
0
いわゆるブルーワーカー
いわゆるホワイトカラー
■困りごとあり
■困りごとなし

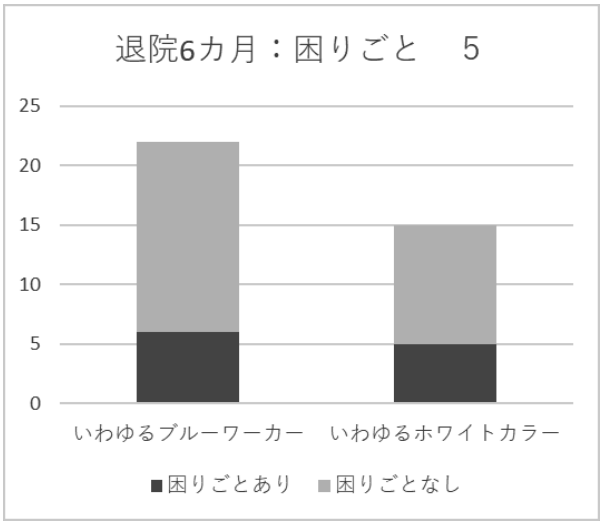

退院3カ月：困りごと　8
70
60
50
40
30
20
10
0
いわゆるブルーワーカー
いわゆるホワイトカラー
■困りごとあり
■困りごとなし

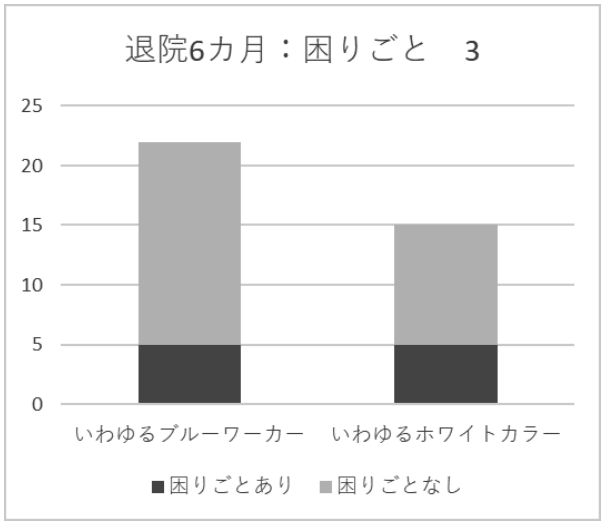

退院3カ月：困りごと　9
70
60
50
40
30
20
10
0
いわゆるブルーワーカー
いわゆるホワイトカラー
■困りごとあり
■困りごとなし

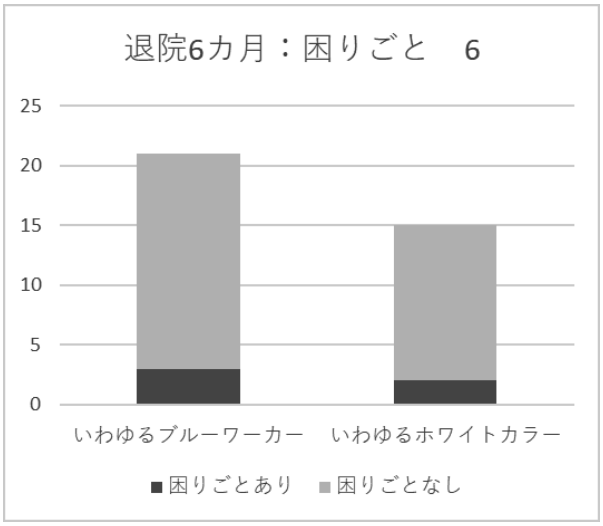

退院6カ月：困りごと　1
25
20
15
10
5
0
いわゆるブルーワーカー
いわゆるホワイトカラー
■困りごとあり
■困りごとなし

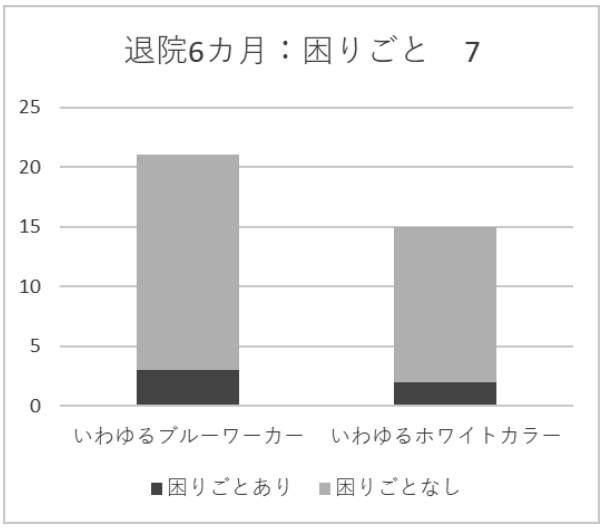

退院6カ月：困りごと　4
25
20
15
10
5
0
いわゆるブルーワーカー
いわゆるホワイトカラー
■困りごとあり
■困りごとなし

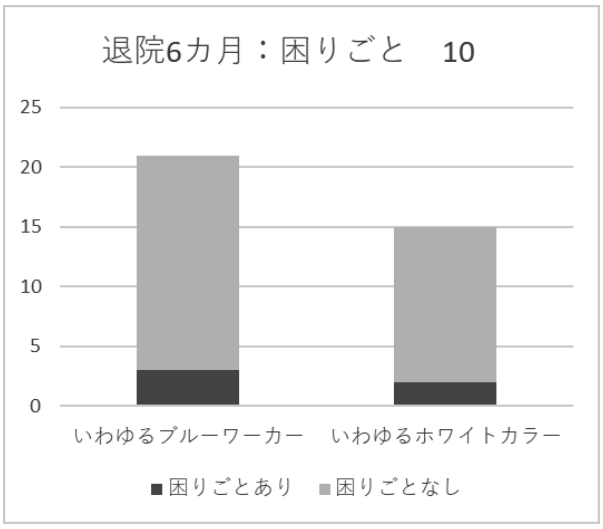

退院6カ月：困りごと　2
25
20
15
10
5
0
いわゆるブルーワーカー
いわゆるホワイトカラー
■困りごとあり
■困りごとなし

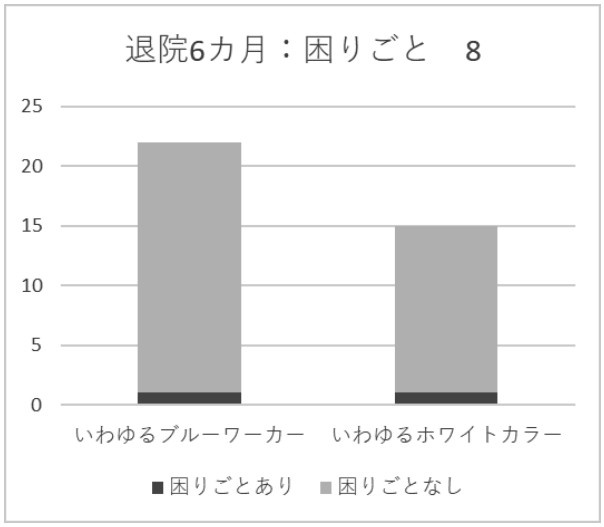

退院6カ月：困りごと　5
25
20
15
10
5
0
いわゆるブルーワーカー
いわゆるホワイトカラー
■困りごとあり
■困りごとなし

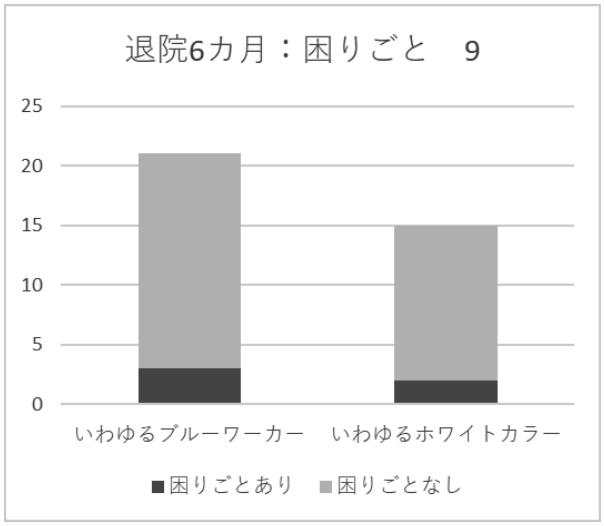

退院6カ月：困りごと　3
25
20
15
10
5
0
いわゆるブルーワーカー
いわゆるホワイトカラー
■困りごとあり
■困りごとなし

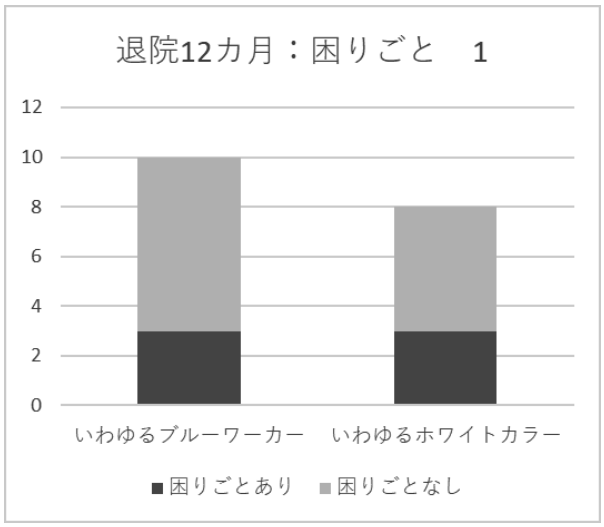

退院6カ月：困りごと　6
25
20
15
10
5
0
いわゆるブルーワーカー
いわゆるホワイトカラー
■困りごとあり
■困りごとなし

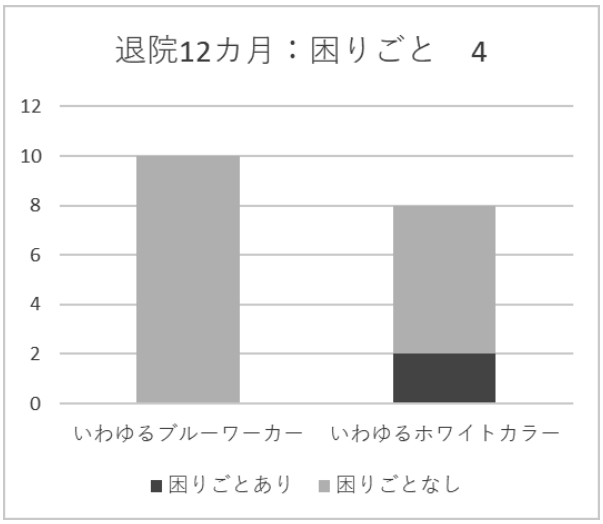

退院6カ月：困りごと　7
25
20
15
10
5
0
いわゆるブルーワーカー
いわゆるホワイトカラー
■困りごとあり
■困りごとなし

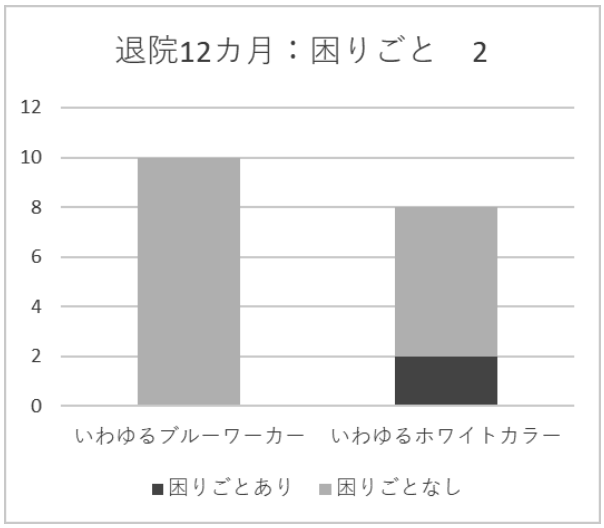

退院6カ月：困りごと　10
25
20
15
10
5
0
いわゆるブルーワーカー
いわゆるホワイトカラー
■困りごとあり
■困りごとなし

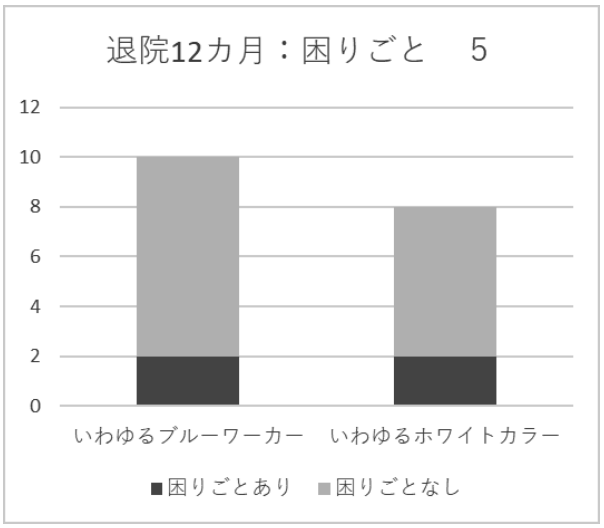

退院6カ月：困りごと　8
25
20
15
10
5
0
いわゆるブルーワーカー
いわゆるホワイトカラー
■困りごとあり
■困りごとなし

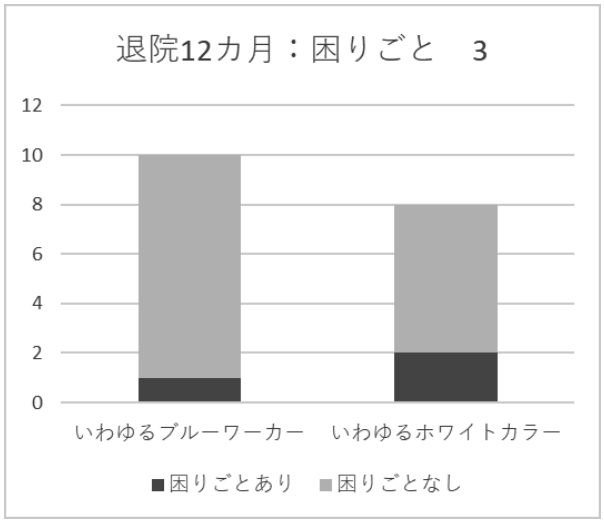

退院6カ月：困りごと　9
25
20
15
10
5
0
いわゆるブルーワーカー
いわゆるホワイトカラー
■困りごとあり
■困りごとなし

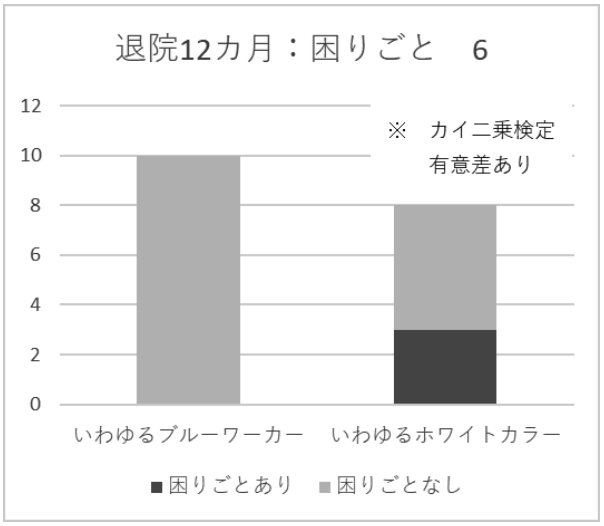

退院12カ月：困りごと　1
12
10
8
6
4
2
0
いわゆるブルーワーカー
いわゆるホワイトカラー
■困りごとあり
■困りごとなし

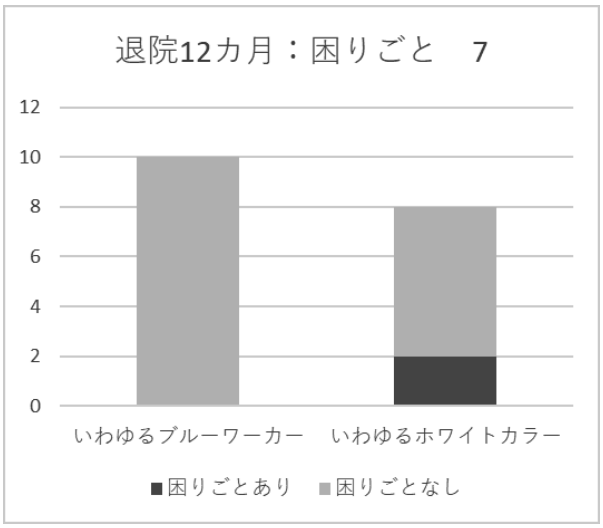

退院12カ月：困りごと　4
12
10
8
6
4
2
0
いわゆるブルーワーカー
いわゆるホワイトカラー
■困りごとあり
■困りごとなし

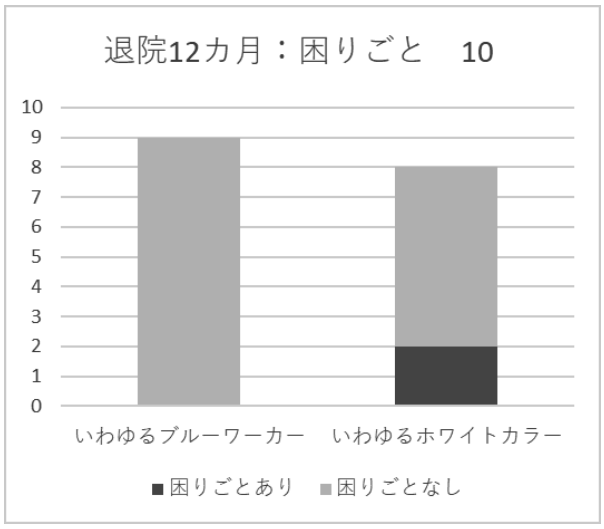

退院12カ月：困りごと　2
12
10
8
6
4
2
0
いわゆるブルーワーカー
いわゆるホワイトカラー
■困りごとあり
■困りごとなし

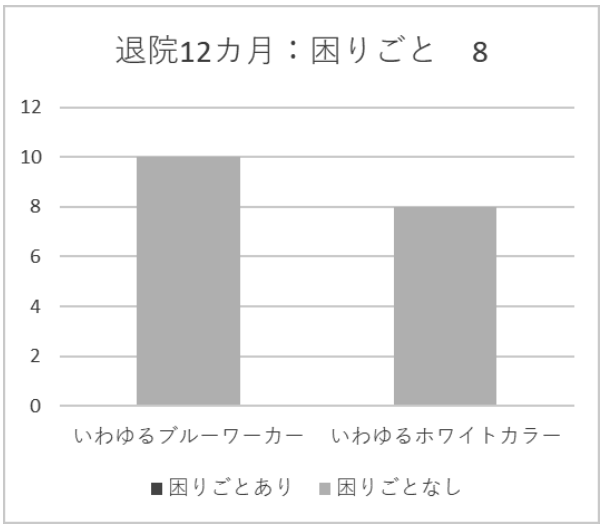

退院12カ月：困りごと　5
12
10
8
6
4
2
0
いわゆるブルーワーカー
いわゆるホワイトカラー
■困りごとあり
■困りごとなし

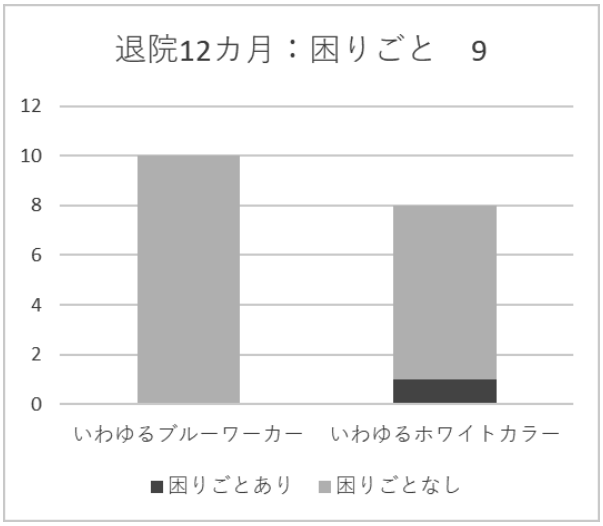

退院12カ月：困りごと　3
12
10
8
6
4
2
0
いわゆるブルーワーカー
いわゆるホワイトカラー
■困りごとあり
■困りごとなし


退院12カ月：困りごと　6
※　カイ二乗検定
有意差あり
12
10
8
6
4
2
0
いわゆるブルーワーカー
いわゆるホワイトカラー
■困りごとあり
■困りごとなし


退院12カ月：困りごと　7
12
10
8
6
4
2
0
いわゆるブルーワーカー
いわゆるホワイトカラー
■困りごとあり
■困りごとなし


退院12カ月：困りごと　10
10
9
8
7
6
5
4
3
2
1
0
いわゆるブルーワーカー
いわゆるホワイトカラー
■困りごとあり
■困りごとなし


退院12カ月：困りごと　8
12
10
8
6
4
2
0
いわゆるブルーワーカー
いわゆるホワイトカラー
■困りごとあり
■困りごとなし


退院12カ月：困りごと　9
12
10
8
6
4
2
0
いわゆるブルーワーカー
いわゆるホワイトカラー
■困りごとあり
■困りごとなし